

中学校柔道授業における「柔道演武」の実践と学習効果

学籍 番号 249317

氏 名 川染拓海

主指導教員 石川美久

副指導教員 太田順康

1. 背景

学習指導要領（平成29年告示）およびその解説では、育成すべき資質・能力を「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で整理し、各教科において「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ることが求められている（文部科学省，2017）。武道領域においても、礼法・相手尊重・安全配慮を基盤に、相手の動きに応じて基本動作や基本となる技を身に付け、攻防を通して勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことが重視される（文部科学省，2017）。一方、中学校柔道授業は安全確保が最優先課題となりやすく、受け身や技の反復練習に学習が偏り、学習者が課題を見だし、工夫し、合理的に解決する学習過程や、対話・省察を通して学びを深める経験をどのように保障するか検討していく必要がある。

そこで本研究では、生徒が対話しながら技のつながりや攻防の流れを構成し、それを表現する活動を「柔道演武」として教材開発し、柔道授業に導入することで、その学習効果を検証した。

2. 研究方法

対象校はT中学校とし、対象者は1年生男子の2クラス（各クラスは2学級の合同からなる）、計75名とした。A群（柔道演武実施）とB群（未実施）の割り当ては授業内で分けるのではなく、クラス単位で設定した。実施期日は令和6年12月3日から12月20日の全9時限とし、そのうち、全授業に参加した66名分（各クラス33名）のデータを分析対象とした。授業は武道場で実施した。

単元は第1～第6時で受け身・基本的な投げ技・防御行動等の基礎的学習を段階的にを行い、第7・第8時にA群は「柔道演武」（台本作成・練習・発表）を実施し、B群は復習および自由練習を行った。第9時はA群のみ自由練習を行った。

アンケートは無記名で、単元の最終授業としてA群は第9時限終了後、B群は第8時限終了後に実施した。項目は山本ら（2013）の指標（運動目標・認識目標）および山本ら（2017）の尺度を参照し、運動技能・協働性・礼儀作法・学習態度等を評価する全24項目、4件法で回答を求めた。

分析はSPSS24を用いた独立サンプルt検定を実施し、有意水準は5%未満とした。倫理的配慮として、学校長、担当保健体育科教諭及び調査対象者に対して研究の目的・方法等を説明し、同意を得た上で実施した。

3. 結果及び考察

単元を通して、生徒は安全に関する約束事（合図で止まる、無理をしない、受が準備できてから動く等）を比較的良好に守り、授業運営は概ね安定していた。投げ技の学習では慎重に動きを確認する様子が多く見られた一方、動作の改善は教員の助言に依存しやすく、生徒同士が観察・助言を通して学びを深める場面は多くはなかった。A群の「柔道演武」では、台本作成・練習・発表という構造により、動きの順序や役割について確認し合う場面が増加し、安全に成立する流れを確かめる相談が見られた。一方、限られた時間の中で完成させる必要があったため、構成が技の順序決定に集中しやすく、意図や工夫を掘り下げる対話は多くは見られなかった。

アンケート結果では、「危険な状況でも自分の身を守ることができた」「相手の技に落ち着いて対処できた」の2項目で有意差が認められ、演武を経験したA群がB群より高い値を示した。

これらは山本ら（2017）の「対応行動」下位尺度の構成項目に該当し、演武という構成的な活動を通じて相手の動きや技を予測し、自らの動きを瞬時に判断し対応する学習経験が関与したと整理できる。また自由記述では「楽しかった」「試合に近い体験ができた」など肯定的な意見が多く、学習への動機付けとしての効果も確認された。一方、「主体的・対話的で深い学びの実現」という点ではA群・B群で有意な差は認められなかった。対象が中学1年生であり基本技能が十分に習得されていない段階であったこと、演武構成と練習に十分な時間を確保できなかったことから、活動が技の羅列に終始する場面も見られ、対話や創意工夫が限定的になった点が示された。

4. 結論

本研究は、中学1年生の柔道授業に「柔道演武」を導入したA群と未実施のB群を比較し、学習効果の違いを検討した。その結果、A群は「自身の身を守る対応行動」に関わる項目でB群より有意に高く、「柔道演武」は安全面や技能面において一定の効果を示した。一方、主体性や対話性に関する項目では有意差は認められず、初学段階に合わせた活動の計画や実施条件の見直し、評価規準の共有や振り返りの焦点化など、学習過程を可視化する手立てが課題として示された。今後は、実施学年や技能レベルに応じた段階的な計画の下で、「柔道演武」を教材として再構築し研究を進めていきたい。